

「社会認知的手法を用いた依存物質への渴望感・再使用リスク測定を試み」研究にご協力いただいた皆様へ

研究責任者 大谷保和（筑波大学医学医療系）

本文書は、2013年7月より2016年4月まで東京都立松沢病院に入院・通院されていた皆様のうち、「社会認知的手法を用いた依存物質への渴望感・再使用リスク測定を試み」研究（研究責任者：大谷保和）に同意のもとご協力いただいた方々、あるいは2017年3月に調査協力くださったクロス・マーケティング社のモニターの皆様のうち、同様に上記研究に同意のもとご協力いただいた方々へのご報告です。

このたび、上記研究である筑波大学医学医療系医の倫理委員会（承認番号677-3）で承認を受けた「社会認知的手法を用いた依存物質への渴望感・再使用リスク測定を試み（研究期間：平成24年9月6日～平成31年3月31日）」にて、研究にご協力いただいた皆様より取得いたしました情報を用いて、新たな角度から分析を加える研究（「社会認知的手法を用いた依存物質への潜在的態度による再使用リスク予測」）を実施する運びとなりました（研究期間：2019年10月10日～2022年3月31日）。上記「再使用リスク測定を試み」研究にご協力いただいた皆様の情報は完全に匿名化されており、個人の識別が不可能な状態で保管されております。新たな研究に本情報を利用させていただくにあたり、研究実施にかかわる情報をここに公開いたします。

1. 情報の利用目的および利用方法

新しい研究（社会認知的手法を用いた依存物質への潜在的態度による再使用リスク予測）では、社会認知的手法を用いた潜在的なアルコールへの態度が、自記式質問紙を用いて尋ねた飲酒関連項目と合わせ、その後の再飲酒や飲酒状況とどのように関連するかを検討するものです。

ご協力いただいた研究（社会認知的手法を用いた依存物質への渴望感・再使用リスク測定を試み）と同じ研究目的で、同じデータを使用して、新たに別の統計解析も必要に応じて実施検討し、得られた研究成果の論文化や学会発表を予定しております。データは匿名化されて取得および保管されており、新たなデータ使用に伴って皆様の個人情報が明らかになることはございません。

2. 利用する情報の項目

ご協力いただいた研究（社会認知的手法を用いた依存物質への渴望感・再使用リスク測定を試み）において、回答をお願いした全項目を使用いたします。この中には個人名のような個人を特定する情報は含まれておりません。

3. 利用する者の範囲・情報の管理について責任を有する者

当研究を申請している研究責任者（大谷保和）に限ります。また当研究の研究責任者（大谷保和）が管理責任者となります。

何かございましたら、下記までお問い合わせいただけますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

筑波大学医学医療系 社会精神保健学分野

助教 大谷保和 E-mail: ogai.js@md.tsukuba.ac.jp